

どんな環境の中でも

## 美しく豊かな人生をサポート ～訪問理美容サービス～

大分市内で理美容店を三店舗開設されており、新たに「訓練校」を開校して育成にも精力を注がれ、移動福祉理美容車をオープンして現在施設契約四十数件と訪問理美容『ビューティフルライフ』での「ヘアケア」「心のケア」の両立にご活躍されている、田中晃一さん、そしてその考え方を同じくするチーフマネージャーの中晴千恵美さんにお話を伺いました。



田中 晃一さん

### Q. 移動福祉理美容を始めるきっかけは

私が物心ついた頃から、祖母や両親は休みの時は、近くの施設にボランティアカットで訪問していました。私も18歳から始めました。

退院する時、入院中でも老人ホームでも身だしなみについては、男性よりも女性の方が思いは強く、何とかならないものかと考えていました。祖母や子どもの入院をはじめ、以前からあらゆる施設に関係がありましたので、「理美容の部分では私がしなければ」という気持ちになりました。

### Q. 事業を起こすのに大変なご苦労があったのでは

お金の問題、スタッフの問題、施設等の理解をどうクリアするかなど、問題がたくさんありました。東京から鹿児島まで多くの方々の意見を聞き、現場を見て考えたことは、たとえば女性スタッフの場合、結婚・出産後の処遇や技術を有する60歳、70歳の方でも健康であれば出来ることなど、いくつかの選択肢が私のビジョンにマッチしてきました。

夢を提供できる仕事として、この事業に取り組んだのが全国で8番目くらいでした。やれる人がいるのだから私にも出来ると、いろいろな問題をクリアしてきて現在に至っております。「ヒヤリ・ハット・クレーム報告書」、アンケート葉書やカルテの継続などのクレーム対策が、より良いサービスの提供に効果をつけています。「何とかなった」と、今、実感しています。



中晴 千恵美さん

### Q. 仕事をするうえで心がけていることは

対象は、病院、施設、身体が不自由な方、お年寄りで外出できない方です。お客様の中には、バリカンの音に敏感な方、ハサミを嫌う方など居てなかなか進まないことがあります。車椅子の移動などお店とは違った緊張感があります。ヘルパーの仕事を理解するため、スタッフ全員ヘルパー2級にチャレンジし、取得した人もいます。

また、気持ち良く利用していただけるよう理美容車の中をお店のサロンと同じ内装にして、雰囲気が変わらないようにしています。笑顔を絶やさず、時間がかかってもコミュニケーションを取り、馴れ合いにならないようお客様の名前は3回は呼ぶように心掛けています。社長の考えをスタッフ全員が理解し、意見

を出し合いながら、より良いサービスが提供できるように努力しています。



### Q. マネージャーの仕事はどのようなですか

社長の下で9年間過ごし、理美容福祉に関する考え方をスタッフに伝えるのが役目です。また、クレーム対応、スタッフや施設訪問のスケジュール調整を行っています。

お客様の髪形が変わるだけではなく、心にも変化が現れ、やり甲斐を感じてうれしくなります。最初は手探り状態でしたが、今では「任せろよ」と言ってくださいます。理美容車の到着を楽しみに待っていらっしゃる顔を見ると疲れは忘れます。



## 訪問理美容サービス

65歳以上で介護保険の要介護認定が3～5またはこれに準ずる在宅の高齢者で、理髪店や美容室に出向くことが困難な世帯に対し、自宅で調整する際の出張料金について助成します。

\*詳しくは、大分市高齢者福祉課まで☎534-6111

(内線1435～36)